

三浦半島のやぐら

(公財)かながわ考古学財団 調査研究部

調査課 松葉 崇

はじめに

やぐらは鎌倉に集中していることが知られているが、三浦半島でも数多く確認されている。今回は鎌倉と三浦半島のやぐらの共通点と相違点を検討し、三浦半島のやぐらの特徴を見てみることにする。

○地域の設定

鎌倉 三方を山で囲まれた内側に山ノ内・極楽寺・六浦・名越周辺を加えた地域。

鎌倉周縁 三方の山の外縁。小坪・池子・追浜など。

三浦半島 上記以外の横須賀市・逗子市・三浦市・葉山町。

その他 上記以外の県内

1. やぐらの概要—鎌倉を中心に—

定義 鎌倉時代後期から室町時代前期(13世紀後半～15世紀前半)かけて造営された横穴式墳墓窟。

分布 鎌倉と鎌倉周縁に特に集中し、3000基ともいうが、実数は不明。鎌倉周縁と三浦半島では103ヵ所、550基以上が知られる。鎌倉と三浦半島に集中しているが、同様の遺構は千葉県でも多く、東北から九州まで見られる。

構造 玄室・羨道・前庭で構成される。やぐらの前面は平場や崖状に造られていることも多い。しかし、後世の削平で当初の状況が分からないものも多い。内部には溝・柱穴・梁など構造に関わるものがあり、希に彫刻や荘厳などの宗教的な装飾に関わるものなどがある。

規模 玄室の規模は様々。小さいものは0.4～0.6mぐらいから、大きいものは8～9mのものもある。

立地 谷戸に多く、寺院との関係性が指摘されている。崖裾のやぐらは大きく、散發的。山頂・中腹のやぐらは小さく、集中的といえる。もちろん例外もある。

開始 開始の経緯は確定していないが、鎌倉に入ってきた中国仏教文化の中に含まれていたとの説がある。武士があふれて、鎌倉で墓を造ることが禁止されたからではない。

隆盛 13世紀後半から15世紀前半に数多く造られた。納骨・造塔が確認できることから、墓・供養が行われていた。しかし、何も出土しないやぐらも多い。

衰退 15世紀後半以降は墓・貯蔵庫・ゴミ捨て場・家畜小屋などになる。近現代には防空壕・倉庫などになっているものもある。

2. 三浦半島のやぐら

○玄室規模の検討(第1・2表)

県内では148遺跡、1053基以上が調査報告されている。このうち624基を検討対象とした。

- ・大きさでは各地域の差はない。
- ・各やぐら群の中では大小差が見られる。
- ・形態は各地域とも玄室・羨道・前庭のやぐらが見られる。

○出土遺物の検討(第3・4表)

やぐらから出土した遺物のうち、かわらけ・その他土器・国産陶器・舶載陶磁器・石塔類に注目した。これらが出土したやぐらは402基である。各出土点数、1基換算、その割合(%)を記した。

- ・鎌倉はかわらけが多く、国産陶器と舶載陶磁器も他より多い。
- ・鎌倉周縁は鎌倉と三浦半島の間のような様相であり、舶載陶磁器は少ない。
- ・三浦半島は石塔類が多く、かわらけは少なく、国産・舶載陶磁器は非常に少ない。
- ・その他は石塔が多く、かわらけ・国産陶器が三浦半島より多い。

○三浦半島のやぐら事例

横須賀市薬王寺やぐら群

三浦市間口またやぐら群

3. まとめ

鎌倉と三浦半島のやぐらを比較してみた。

- ・玄室規模に大きな差はない。
- ・出土遺物の組成に大きな違いが見られる。

↓

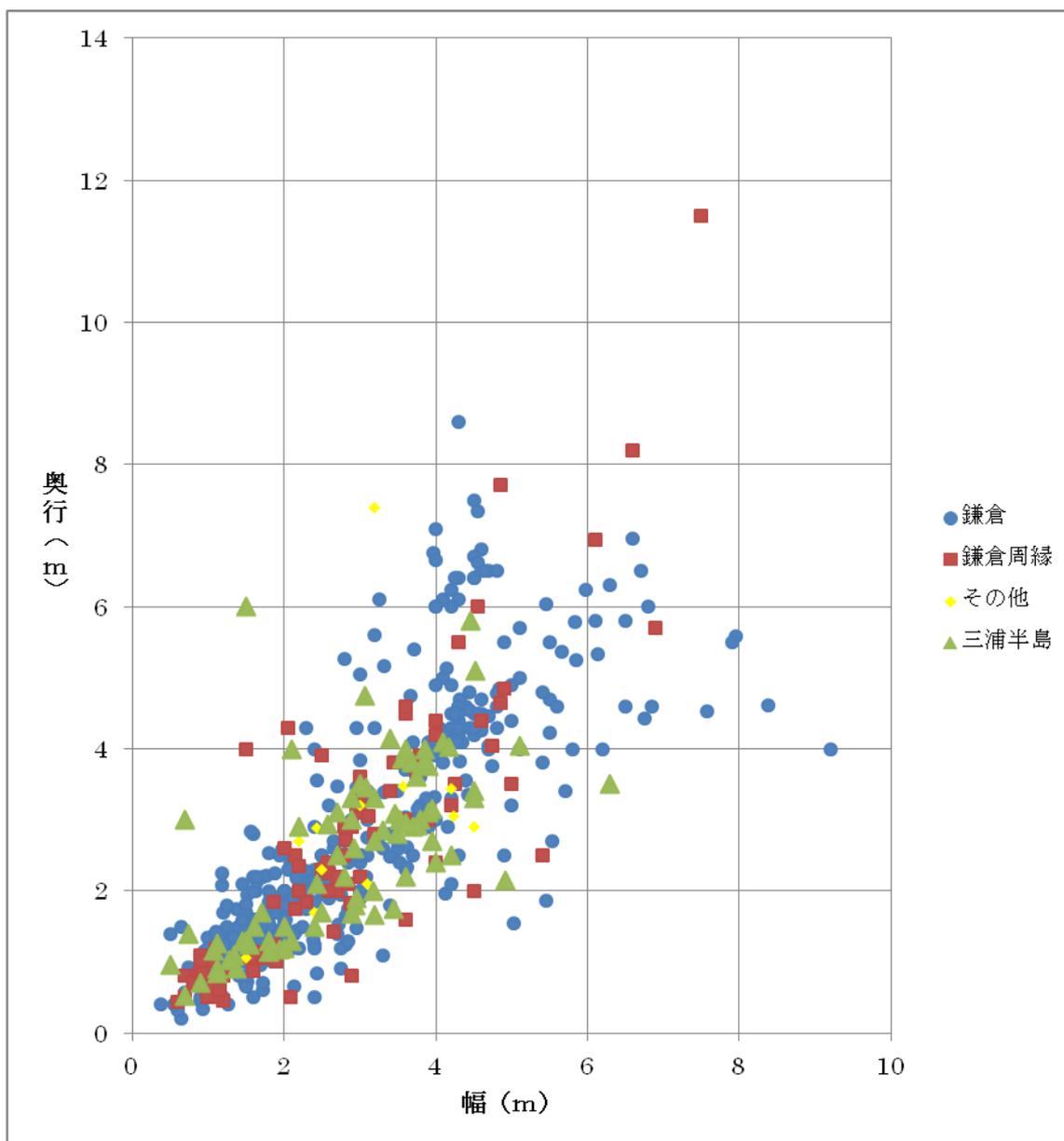
- ・やぐらという形態的特徴や大きさはそのまま伝わったと推測される。
- ・やぐらの造営が石塔を主体とした供養になった段階で、三浦半島に広がった？
→納骨供養は見られる。
- ・15世紀後半以降の遺物も見られる。
→鎌倉ほど急速な衰微ではなかった？

参考文献

- 赤星直忠 1959『鎌倉市史 考古編』 吉川弘文館
- 赤星直忠 1980『中世考古学の研究』 有隣堂
- 安生素明 2003「中世鎌倉地域の葬送―「やぐら」を中心として―」『駒澤考古』29 駒澤大学考古学研究室
- 宍戸信吾・谷正秋 2004『間口またやぐら群』かながわ考古学財団調査報告 172
- 宍戸信吾・谷正秋 2004『薬王寺やぐら群』かながわ考古学財団調査報告 176
- 鈴木庸一郎 2009「「谷」のやぐら、「山」のやぐら」『神奈川考古』45 神奈川考古同人会
- 田代郁夫 1993「鎌倉の「やぐら」―中世葬送・墓制史上における位置付け―」『中世社会と墳墓』帝京大学山梨文化財研究所シンポジウム報告集 名著出版
- 田代郁夫 1994a「海蔵寺周辺の「やぐら」について―塔頭に展開する「やぐら群」―」『湘南考古学同好会々報』53 湘南考古学同好会
- 田代郁夫 1994b「建長寺境内所在の「やぐら」について―塔頭に展開する「やぐら群」―」『湘南考古学同好会々報』55 湘南考古学同好会
- 田代郁夫 1998「中世石窟「やぐら」の盛期と質的転換」『考古論叢 神奈川』第7集 神奈川県考古学会
- 中世研究プロジェクトチーム 2006「神奈川県内の「やぐら」集成(4)―「やぐら」出土の土器・陶磁器類について―」『かながわの考古学 研究紀要』11 (財)かながわ考古学財団
- 中世研究プロジェクトチーム 2007「神奈川県内の「やぐら」集成(5)―「やぐら」出土遺物の分析―」『かながわの考古学 研究紀要』12 (財)かながわ考古学財団
- 松葉崇 2008「鎌倉におけるやぐらへの葬送―火葬骨・非火葬骨の出土事例から―」『神奈川考古』44 神奈川考古同人会
- 松葉崇 2010「神奈川県に於けるやぐらの出土遺物様相―陶磁器を中心として―」『神奈川考古』46 神奈川県考古同人会
- 松葉崇 2009「谷戸に展開するやぐら群―玄室規模の検討―」『扶桑 田村晃一先生喜寿記念論文集』 青山考古学会
- 松葉崇 2012「神奈川県に於けるやぐらの出土遺物様相(2)―陶磁器の年代と出土量―」『神奈川考古』48 神奈川県考古同人会
- 馬淵和雄 2008「上行寺東遺跡やぐら群の成立と展開」『神奈川地域史研究』第26号 神奈川地域史研究会
- 横須賀考古学会 2009『三浦半島考古学事典』
- 横須賀市 2010『新横須賀市史 別冊考古』

	対象基数	平均幅(m)	平均奥行(m)
鎌倉	443	2.81	2.65
鎌倉周縁	89	2.77	2.6
三浦半島	79	2.87	2.59
その他	13	3.11	3.09

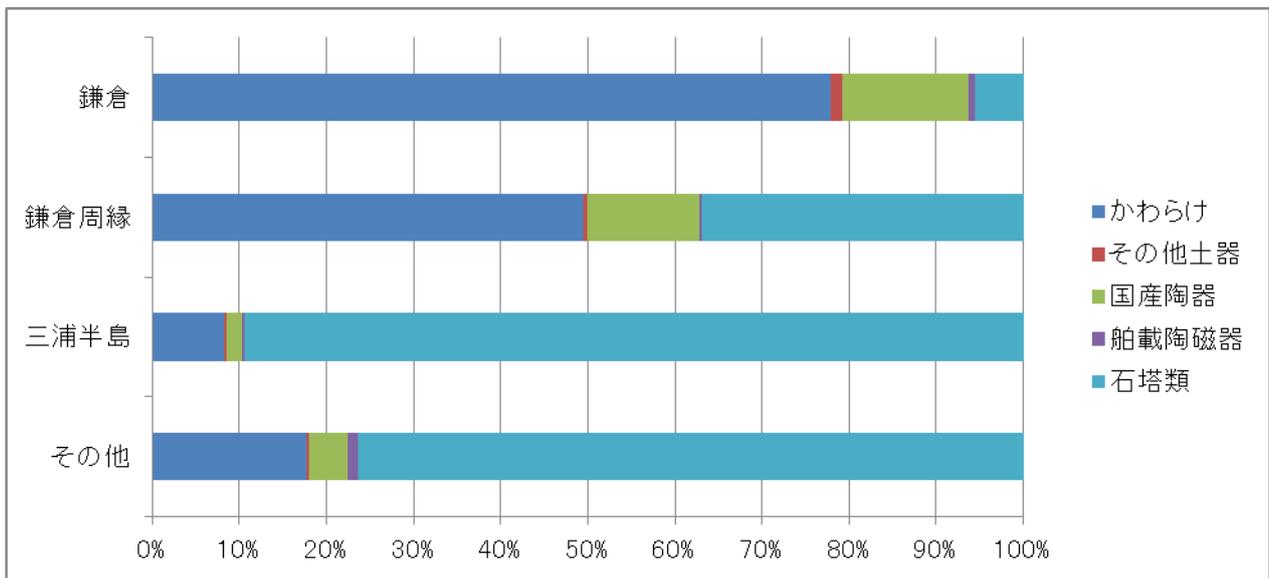
第1表 玄室規模



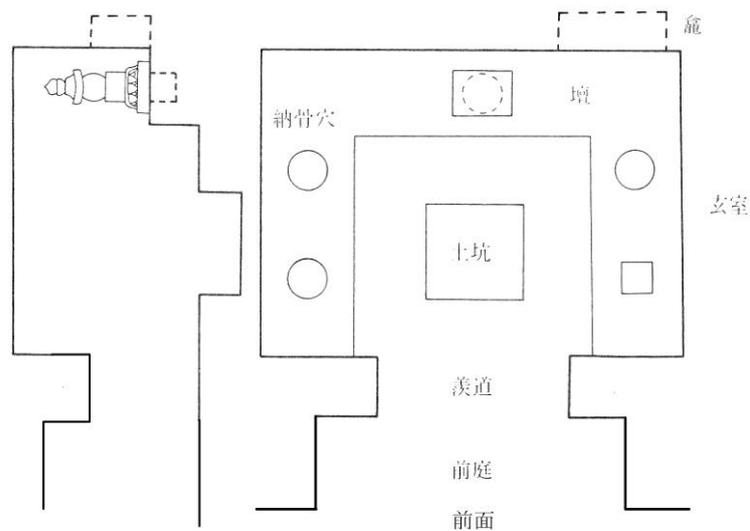
第2表 玄室規模グラフ

	鎌倉	1基換算	%	鎌倉周縁	1基換算	%	三浦半島	1基換算	%	その他	1基換算	%
かわらけ	25052	72.61	77.93%	343	12.70	49.49%	32	1.60	8.23%	64	6.40	17.73%
その他土器	395	1.14	1.23%	3	0.11	0.43%	1	0.05	0.26%	1	0.10	0.28%
国産陶器	4678	13.56	14.55%	89	3.30	12.84%	7	0.35	1.80%	16	1.60	4.43%
舶載陶磁器	229	0.66	0.71%	2	0.07	0.29%	1	0.05	0.26%	4	0.40	1.11%
石塔類	1794	5.20	5.58%	256	9.48	36.94%	348	17.40	89.46%	276	27.60	76.45%
検討対象基数	345			27			20			10		

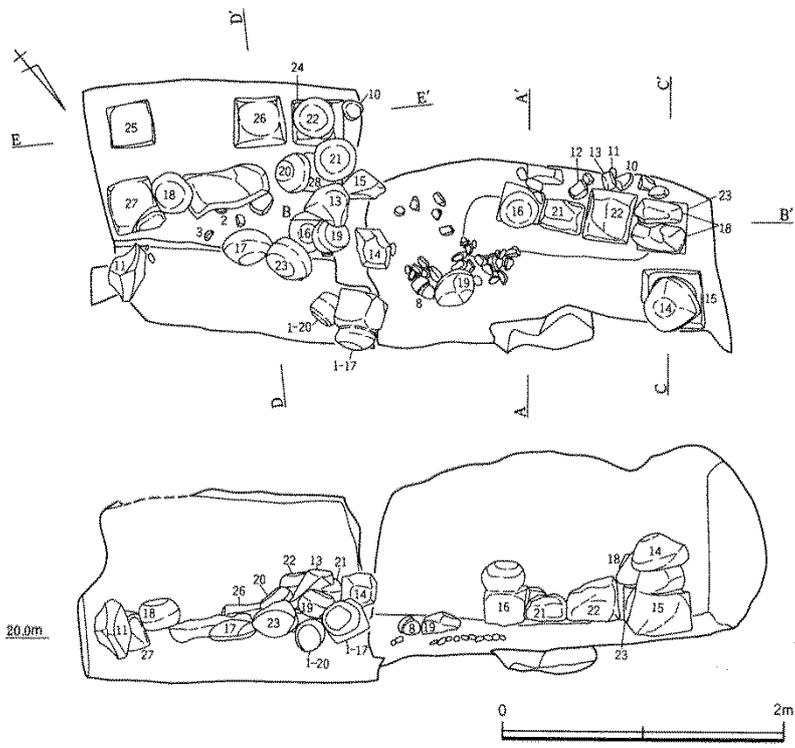
第3表 やぐら出土遺物点数



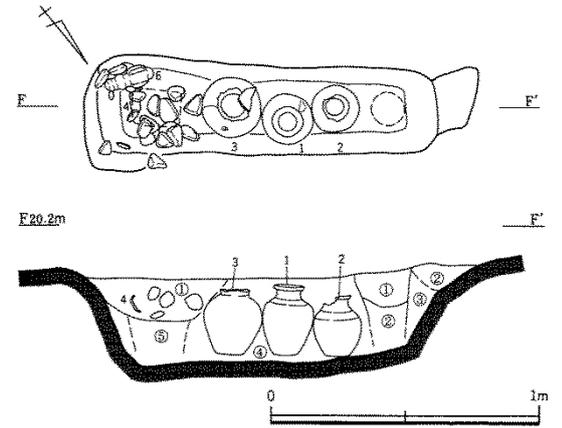
第4表 やぐら出土遺物組成表



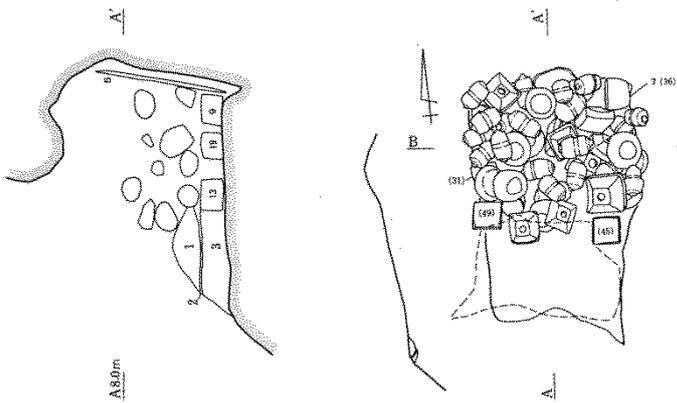
第1図 やぐらの構造



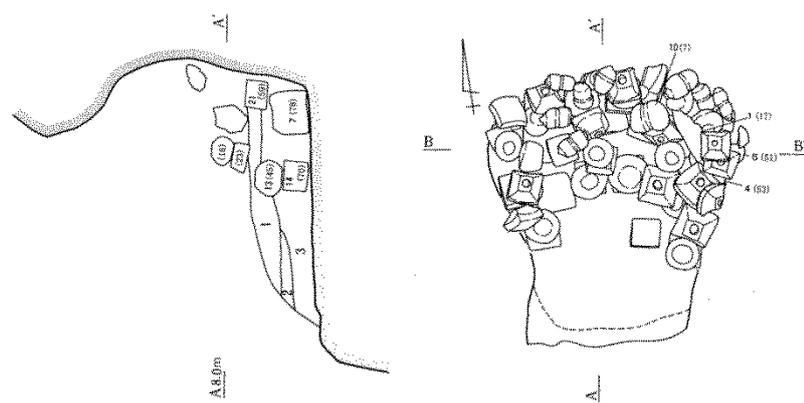
第2図 薬王寺やぐら群1・2号やぐら



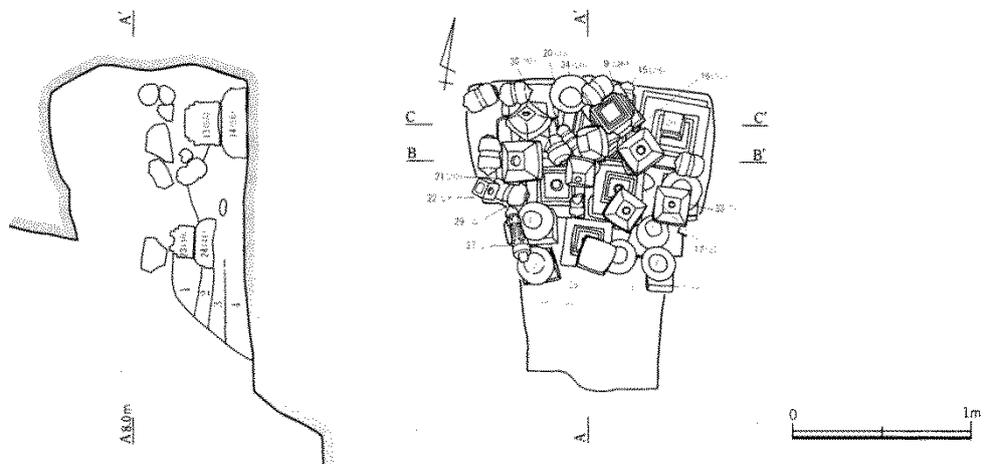
第3図 薬王寺やぐら群1号やぐら藏骨器



第4図 間口またやぐら群1号やぐら



第5図 間口またやぐら群2号やぐら



第6図 間口またやぐら群4号やぐら



表紙写真：矢ノ津坂遺跡から東京湾を望む

裏表紙写真：間口またやぐら群4号やぐら石塔出土状況

公益財団法人かながわ考古学財団 平成25年度考古学特別研究講座
—報告書の成果から導き出されるもの①—



三浦半島の考古学

発行日 2013(平成25)年9月14日

発行 公益財団法人かながわ考古学財団

〒 232-0033 横浜市南区中村町3-191-1

TEL 045-252-8689 FAX 045-261-8162

e-mail : kaf@kaf.or.jp
